



国連環境計画・金融イニシアティブ
特別顧問

末吉 竹二郎 氏

「イオン 環境・社会報告書2009」を読んで

自分たちの大きさを、再確認しよう

イオンは1万以上の店舗を持ち、ショッピングセンターには平日でも4百万人、週末には1千万人のお客さまが訪れるそうです。何という大きさでしょう。では、大きいことにはどんな意味があるのでしょうか。大きさの持つ可能性と責任をイオンが大切にしている3つの視点から考えてみたいと思います。

いつも、お客さまと一緒に

イオンエコ・プロジェクト「まいにちのeco」に、あなたと取り組むプロジェクトとあります。これは、昨年打ち出した意欲的な「30%のCO₂削減」を、お客さまと一緒に達成しようというものです。自ら課した目標ならば、自分たちの努力で達成するのがよさそうです。でも、私はそうは思いません。買う人と売る人、勿論作る人も入って、皆が一緒になって削減に取り組む。ここに大きな意味があると思うからです。イオンが社内だけでなく、大勢のお客さまに呼びかけることで、社会が気づき、そして変わっていくのです。自分たちの大きさを再認識し、そのポテンシャルを社外に広めていく。これこそが社会が「大きなイオン」に求める期待なのです。

絶えず、新たな挑戦を

私も「イオンレイクタウン」を見てきました。イオンのチャレンジ精神は素晴らしい取り組みを生んでいます。温暖化との戦いは啓蒙の時代から「実践の時代」に移ってきました。早く具体的に取り組むことが求められています。でも、多くの消費者はまだまだ何をすれば良いのやらよく知りません。ましてや、新しい試みに触れる機会は少ないのです。そうした中、毎日大勢のお客さまが訪れるイオンに時代の最先端をゆく実践の場があれば、これは社会にとって大きな導きになります。イオンの進化するエコストアで多くのお客さまが学び、行動し、そして楽しむ。その場をこれからもどんどん増やしていく。これこそが、「大きなイオン」が社会に果たしていく責任の一端ではないでしょうか。

いつまでも、やり続ける

1991年に始まった植樹活動は2009年には北京で百万本。世界では9百万本。1991年に始まった容器の回収は2008年だけで食品トレイで2億5千万個。2001年に開始したイオン幸せの黄色いレシートキャンペーンは累計で95,790団体に8億円相当の品物を贈呈。始めるときにはどんなに小さくとも、やり続けることでどんなに大きく成長するのか、見事な標本ばかりです。

このこともイオンの大きさをどう活かすかの可能性を思い出させてくれます。自分たちができることをいつまでもコツコツとやり続ける。そこに大勢のお客さまからの支援の輪が加わるとこんなにも大きな成果が得られるのです。「ずっと続けてきたこと」をやり続けることでイオンは、大勢のお客さま、そして働く人たち、さらには社会に地球環境を守ることの大切さを伝えてきました。これからも「ずっと続けていくこと」を見守っていききたいと思います。

こうやって見てきますと、大きなイオンは、大きな可能性を秘めています。そのことは消費者や社会に大きな責任を負っていることと同義語です。お客さまが欲しがるものを早く、たくさん、しかも安くお届けするだけではない。温暖化時代の日本や世界がこれから必要とする大切なものもお客さまと一緒に創っていく。つまり、イオンはお客さまと「相互啓発的な関係」を築いて行くことが求められているのです。

イオンで働く人たちが、もう一度、自分たちの大きさを再確認し、その可能性と責任の大きさを再認識する。そこから、イオンの新しい出発と更なる発展が見えてくるのではないのでしょうか。